

神代神楽

神代神楽は「岩戸開き」「国譲り」「大蛇退治」の3編で構成されている神話劇です。神話の順序は「岩戸開き」「大蛇退治」「国譲り」ですが、演出上「大蛇退治」を最後に舞うのが通例となっています。

「岩戸開き」

ストーリー(写真P7①)

素戔鳴尊の悪行に怒って岩屋に隠れた天照大御神に出てきてもらうよう、両神(天児屋命・天太玉命)が思兼命に相談。思兼命は素戔鳴尊の追放を決定する。また、天照大御神を外へ引き出すために「岩戸の前に榊の木を植え飾りつけて火を焚き、天鈿女命に乱舞させるなど騒ぎを起こす。すると天照大御神は外を見ようとす。その瞬間に手力男命の力で岩戸を一気に押し開ける」という策を授ける。この策により、天照大御神が岩屋から出て明るい世の中に戻ってきた。



「国譲り」

ストーリー(写真P7②)

高天ヶ原の勅使として経津主命、武甕槌命の両神が稲佐の浜に舞い降り、大国主命に会って国譲りの談判をするが決裂した。稲背脛命が仲裁に入り、事代主命を迎えて親子相談した結果、国土を譲ることとなるが、国譲りに反対の建御名方命と両神の間に大激戦が始まり、激闘の末これを平定して国土奉納が完了する。



「大蛇退治」

ストーリー(写真P7③)

素戔鳴尊が悪事を働き高天ヶ原から根の国に追われたが、再び出雲の国に舞い戻り、嘆き悲しむ足名槌と手名槌に会って話を聞くと、八岐大蛇の乱暴な振る舞いに困っていると聞く。素戔鳴尊は思兼の末、松尾明神に依頼し濁酒を造って大蛇に飲ませ、酔った大蛇を退治、腹中から出た「天叢雲剣」(草薙の剣ともいう)を天照大御神にささげる。



備中神楽の伝承を

神楽ロード

本丁商店街(成羽町下原)では、平成19年1月から「神楽ロード」と銘打って、新しい商店街づくりに取り組んでいます。

神楽のストーリー順に展示された神楽オブジェは、商店会員と町内外からのボランティアによって全て手作りで制作されたものです。また、成羽美術館入口付近にも大型の神楽オブジェが2体展示されています。



國橋まつり大神楽

西林國橋を顕彰する「國橋まつり大神楽(同実行委員会主催)」が毎年4月に開催されています。神楽神事と「岩戸開き」「国譲り」「大蛇退治」が披露され、県内屈指の神楽大夫が熟演する勇壮で躍動感ある舞いを楽しむことができます。

備中神楽研修会

備中神楽の保存と伝承、また活動団体の技術向上を目的に、県内の団体が集まって「備中神楽研修会」(市教育委員会・備中神楽成羽保存会主催)を毎年開催しています。各支部の神楽太夫の舞の共演を見ることが出来ます。

